

## 第廿八番 塩谷寺（馬頭観世音菩薩）

\*宗 派 天台宗

\*御本尊 馬頭観世音菩薩

\*開 山 慈覚大師円仁（七九四―八六四） 仁寿元年（八五一）

中興 什珍法印（一六八二）寂

\*現住職 第十六世 福寿亮賢

\*〒二二三―〇〇六六 横浜市港北区高田西四―三十四―三十五

\*☎〇四五―五九二―二四〇六

\*東急東横線「綱島」駅より「江田駅」行バス「倉田屋前」下車

\*横浜市営地下鉄グリーンライン「高田」駅下車 徒歩十五分

塩谷寺略縁起によると、文徳天皇（在位八五〇―八五八）には二人の后妃がおり、それぞれに王子が授かったという。天皇は世継ぎの問題で悩んでおられたが、第一の皇后はこの心労により病床に伏してしまう。天皇は天照大神の神託により、遙か東国の薬師の霊場へ慈覚大師を遣い出す。大師はこの地より長生不老の塩泉を汲み、天皇に献上したところ、皇后の病は立処に癒えた。又この塩泉を四人の王子の頭頂に灌いだところ、突然四人目の王子より光明を発したという。この王子が清和天皇である。天皇はふたたび大師に命じこの地に薬師如来を本尊として塩谷寺を建立した。

元禄十四年（一七〇一）客殿に農耕馬の供養として馬頭観音が祀られたが、農業の隆盛とともに栄え、客殿を本堂として現在に至る。

### ご 詠 歌

まつかぜの

おとぞみにしむ

しをたにや

ふかきまよいも

はるるつきかげ



（第28番 塩谷寺）